

社会福祉法人室蘭言泉学園広報

初めの一步に

「元気」と「勇気」を

いずみ



写真：児童養護施設わかすぎ学園～餅つき大会

社会福祉法人室蘭言泉学園の基本理念



- 人間の尊厳を支える組織として一人ひとりの人格を尊重し、その成長を支援します。
- 常に利用者本位の立場に立って、そのニーズに応えヒューマンサービスの質の向上に最善を尽くします。
- 地域社会の福祉の担い手として福祉課題を積極的に掘り起こし、それに取り組みます。
- 社会福祉法人として、多機能で選択肢があり継続的なサービスを提供できる経営を目指します。

新しい年度に挑戦

理事長 菅野 登一郎

室蘭岳に今冬の冬景色を描いていた白雪が山頂にまだ残るなかで、新年度を迎えようとしています。

今年度は、コロナ禍による感染予防と対策に多くのエネルギーを必要とした1年でありました。その一方、感染者の支援に向き合う職員の姿は、感動と尊敬そのものでありました。

さて昨年、広報いすみの巻頭言で小生は「利用者の生活の質の向上に必ず貢献する」と言い切ったのですが、実のところ「これが成果です」と、この場でお示しすることが出来ません。軽率な言回しをしたと、自分ながら深く反省しているところがあります。

目標・評価は「具体的に」「曖昧にしない」と言い続けてきたはずでしたが、当の本人がこれですから赤面の至りであります。

今年度

の事業方針を執筆

中に、こ

の反省か

ら今年を「数値化元年」とし目標・

計画・評価に数値化を意識して欲

しいと職員の皆さんに訴えまし

た。加えて、数値化研究委員会も

立ち上げるといたしました。

さて、その成果はどうなるの

か、次年度の広報誌いすみの巻頭

言で紹介できれば幸いです。

福寿草、ふきのとう、水仙など

が地面を割って芽を吹いて来ま

す。この春の訪れを満喫しながら

新しい年度に期待を込めたいと

思います。



言 泉 学 園 ニ ュ ー ス

神裕子さん 厚生労働大臣表彰受賞

児童養護施設わかすぎ学園 課長 礪山 恵美

今年度、わかすぎ学園の里親支援専門相談員 神裕子さんが、厚生労働省より、多年にわたり社会福祉事業の従事者としてその業務に精励し、その功績が顕著な方に贈られる「厚生労働大臣表彰」を受賞されました。

神裕子さんは、昭和 60 年に保育士としてわかすぎ学園に入職し、平成 30 年に副施設長に就任、今年度より嘱託職員として、長年にわたり多大な貢献をいただきました。

この間、児童養護施設に求められる役割も変化し続けている状況の中で、大変、ご苦労されていたかと思いますが、子どもたちが安心して生活を送れる環境を作るために、職員へ子どもたちに対して行う支援方法など、様々なことをご教示頂きました。また、現在、小規模施設が 4 ヲ所設置されていますが、ほとんどの施設の設置の際には中心となり推進し、本体施設と小規模施設の連携を図るために、ご尽力をいただきました。

今後とも、健康には十分にご留意いただき、私たちにも末永くご指導を賜れますよう、お願いいたします。



干し芋作りについて

就労継続支援B型事業所湘南しいたけ 所長 藤澤 恵将

本年度からさつまいもの栽培を始めています。100坪ほどの畑に約200本の芋苗を植え付けて栽培しました。品種は「シルクスweet」という品種で、甘味の強いねっとりとした食感のさつまいもです。天候の影響なのか、期待したほどの収穫量はありませんでした。試行栽培で、収穫を終えた廃菌床を堆肥化したものを袋に入れ、土の替わりとして利用してみました。こちらは想像以上に収穫量があったので、次年度は本数を増やしていきたいと思います。

干し芋作りは、12月以降から始めます。芋の収穫は10月ですが、すぐに食べてもおいしくありません。収穫直後の芋はでんぷん質ですが、15℃前後で2か月程度熟成させることで、でんぷんが糖質へ変わる為、甘味が強くなり美味しくなるので12月から始めます。先ず蒸していきませんが、約60℃のお湯で3時間程度蒸していきます。低温で時間をかけることでより甘みも強まります。蒸しあがった後は、皮むきをした後に専用の機材で均等の暑さに切っていきます。その後はトレーに並べて乾燥機へ20時間入れると完成です。甘みもあり美味しい干し芋ですので、ぜひご購入してみてください。



笑顔溢れる秋の行楽会

日中活動センターげんせん 篠原 ゆか子

コロナ禍になり、早3年の月日が流れています。行動制限に伴い、思うようにいかない世の中で、行事もままならない時期もありました・・・。

しかし、ついに！！令和4年10月の『秋の行楽会』。なんとまさに3年ぶりとなる日帰り旅行が実施され、白老のウボボイへと足を運び、アイヌの歴史や民族文化にふれてきました。数組の班に分かれ、展示の見学や映像、また楽器演奏を観たりと各々に楽しめました。やっぱり、メインは何といっても食事です。ラーメンやそば、ジンギスカン定食、スペシャルカレーなどのメニューの中から、事前にピックアップしてもらいましたが、現地で目移りする方も多かったです。久しぶりの仲間との外食は、笑いも多くまた格別なものであったと思います。

天候にも恵まれ、太陽の光を浴びながらの行事は、やはり気持ちが良く、自然と笑顔が溢れ出てくる一日でありました。これからは外での行事やイベントも徐々に増えていくと思いますので、利用者の皆さんと一緒に思いっきり楽しんでいきたいと思っています。



花ファクトリーあけぼの みんなアート出展

花ファクトリーあけぼの 下山田 亜希

2020年から、生活介護事業の活動として、北海道知的障がい福祉協会主催の芸術祭みんなアート出展に向けて作品作りを始めました。みんなアートとは、障がいのある方の芸術祭として北海道の障がい者施設などに多くの作品を募集して、集まった300点程の作品の中から入選作品が100点程展示され、その中から入賞作品が選ばれる芸術展です。

今回花ファクトリーあけぼのは初めての出品となりましたが、見事入選し札幌のかでる2・7に展示され、冊子にも掲載されました。作品は、石粉粘土を直径6mmくらいの大きさに丸めて、爪楊枝に1個ずつ刺してマッチ棒のような物を大量に作り、アクリル絵の具で色塗りとしニス塗りをして、発泡スチロールに描かれた絵に沿って刺していくアート。絵は花ファクトリーあけぼののらしさを出すために大きな花を描き、その中に室蘭のシンボル白鳥大橋とくじらを描きました。大きさは94cm×94cmと大きな物になり、使用した爪楊枝は1万本以上になりました。

始めから上手に粘土を丸めることが出来る方や、どうしても細長くなってしまいう方もいましたが、徐々に上手に丸められるようになりました。色塗りはわりと上手に出来ていましたが、絵に沿って刺していく作業は、刺していく間隔や刺す深さ加減が難しく、職員と一緒に取り組み1年がかりでやっと完成しました。

当初は、2021年に出品予定でしたが、コロナの影響で直前になり中止が決定。1年寝かせて2022年に出品となりました。入賞とまではいきませんでしたが、大きな達成感を得られる活動になりました。



お祭りってなあに？

児童養護施設わかすぎ学園 主任 佐藤 寛行

先日、低学年のお子さんとお話をしているときにお祭りの話題を出しました。子どもは不思議そうな顔をして「お祭りってなに？」と質問をしてきました。道路にお店が出て、などと説明しましたがピンときていない表情でした。ここ数年はお祭りをはじめとする季節行事を経験する機会がなく、来年度こそは楽しい経験、また、思い出が出来ることを願ってやみません。

今年度の全体行事は果物狩りなど2件、後は各ブロックで海遊びや水族館へ行ったり、山でそり滑りをしたりと過ごしました。外に出かける機会は減っていますが、遊戯場でサッカーやてんかをして、日々体を動かしています。



一年間ありがとうございました

小規模グループケア桜 主任 小山 可菜

今年度は、小学生2名が桜仲間入りし、生活の様子もかなり変化がありました。小学生から高校生以上までと年齢の幅があり、子どもたちも戸惑うことが多かったのではないかと思います。

“色々なことがあるけれど、一緒に過ごせるのも何かの縁”そんな話をしたことがあります。

約一年、さまざまな経験を共にし、今ではすっかり打ち解けている子どもたち。数年経った頃に、笑って話せる思い出が一つでも多く残っているといいなと思います。

今年度もたくさんの方に支えていただき、年度末を迎えることができます。本当にありがとうございました。



笑顔のために

地域小規模児童養護施設楓 竹内 夕貴

子ども達にとっての3年間、それはとても長いものだと思います。

コロナ禍になり約3年。それぞれの大切な時間に我慢を強いられる事も依然として多く、更に今年度は職員の異動や介助員の入れ替わりもあり、元気な笑顔の裏で不安を抱えていたかもしれません。

制限や環境変化があった中、手作り料理の食事会やちょっと遠出気分のお出かけドライブ等一行事であっても温かみのある時間を過ごせてもらえるよう工夫をしてきました。

春は進級進学があり、ドキドキワクワクの季節。子ども達が笑顔いっぱい新年度を迎えられるよう、これからも一人一人の思いを大切に、心を込めた支援をしていこうと考えています。



食事から元気に！！

言泉学園・わかすぎ学園 調理室 副主任 成田 大

調理では、わかすぎ学園と言泉学園の子ども達に食事を提供しています。調理職員で知恵を出し合い、食から子ども達の笑顔を引き出せるよう努めています。味やバランスはもちろん、家庭的な雰囲気も大切にしています。

長く続いているコロナウイルスですが、感染対策をしながら行事を行う等、少しずつ以前のような生活が戻ってきました。完全な終息までもう少しかかると思いますが、食事から元気にできたらという思いで、これからも子ども達の健やかな成長を見守り続けたいと思います。



「鈴蘭」の楽しい思い出

苫小牧養育センター鈴蘭 保育士 伊藤 和歌子

今年度の鈴蘭は、中高生の女子の中に幼児1名の男の子が、新しい仲間となり始まりました。振り返ってみると行事は、行動制限がある中で、希望を叶えてあげる事は難しかったですが、皆が楽しめる事をテーマに話し合いました。長期休みの昼食作りでは、2人1組の担当を決め調理中高生ならではの「映える」メニューやデザートがメインのメニュー等を考え作ってくれました。もちろん、味も美味しかったです！！

クリスマス会では高2の子が司会に立候補しビンゴ大会を行い、幼児も楽しめるような司会を見事に務めてくれ大盛り上がりしました。卒業祝いでは、皆大好き「マック」をテイクアウトし大満足の笑顔でした。

来年度の行事は今年以上に、子ども達の希望がたくさん叶うように職員一同頑張ります。



事

業

所

活

動

1年を振り返って

苫小牧養育センターはまなす センター長 竹内 夕貴

今年度ははまなすは新しい出会いが沢山で新たな環境からスタートしました。

4月は小学生と幼児さんの兄妹2名が加わった他、職員の異動・新しく入職した職員をお迎えする…といった子ども、職員のメンバー構成が大幅に変わりました。

新年度を迎え1学年上がった事もあり、自分で出来る事を増やしていく、という成長を促す支援のもと日課やルールを決めて様々な事を体験してもらいました。環境面や顔触れでも今までと違う体制に、子ども達も不安や緊張があったと思います。職員も手探りの状態で戸惑いを抱えつつでしたが、子ども達の笑顔や周りの方々の支えによって無事に年度末を迎える事が出来ました。

行事面では、制限下の中でも楽しめるようなアクティブな余暇活動が出来ました。来年度も積極的に子ども達が体験した事がないような行事等取り入れながら関係を深めつつ、楽しい思い出が残るような1年にしたいと思っております。



1年を振り返って

障がい児入所施設室蘭言泉学園 副施設長 佐々木 弘美

コロナ禍の中、子供達は、生きづらさを感じながら、日常生活においても春の訪れを心待ちにし、マスク生活の終止符が、いつになるのか先が見えない日常を変わりなく過ごしています。制限がある中で行事も見送られ、工夫しながら行事を折り込んできました。

子供達の溢れる笑顔と共に可能性を見つけ出し、これからも、一步一步、突き進んで欲しいと願いを込めて、大切に歩んでいきたいと思います。



ちっちゃいミキサー

活動支援施設あけぼの 主任 渡辺 夏美

ベーカリーあけぼのには、製パンの機械が多数あります。パン生地を捏ねるミキサーは大・小2台あるのですが、今年に入ってから約23年間頑張ってくれたミキサー（私達は『ちっちゃいミキサー』と呼んでいます）が動かなくなってしまいました。業者さんに修理をお願いしましたが、部品が無いと言われ…。

今までも動かなくなった時には修理をしてもらい息を吹き返していたので、そのつもりでいました。しかし、その時はあっけなく突然やってきました。

近隣の学校祭のパン納品で夜通し活躍してくれたミキサーは業者さんに引き取られ、代わりに新しいちっちゃいミキサーが同じ場所に設置されました。

一抹の寂しさも感じますが、苦楽を共にしたミキサーのボウルは引き続き活躍してくれています！新しいミキサー本体と、引き続き頑張ってもらおうボウルやフックと、また新たな出発です！



花ファクトリーの行事紹介

花ファクトリーあけぼの 生活支援員 中野 厚子

今年の一月に行った「新年交流会」では初めて冬に屋外でレクリエーションを行いました。まず最初に雪だるま相手にみんなで雪合戦を行いました。雪だるまに刺した旗を倒すと言うものでなかなか倒れず苦戦していましたがみなさん夢中で投げていました。ハウス内で行った「新春ボーリング大会」は投げ方がみなさん様になっていて格好良かったです。「ガラッキー」は落ちた時に不思議な動きをする玉を投げて競いました。玉の予想外の動きで狙った的から外れてしまったり、逆に外れたと思って上手に収まったりと笑い声と歓声が溢れていました。

普段の作業ではB型と生活介護で別々に作業を行なう事が多いですが、職員も含め全員で楽しく過ごせる所が行事の魅力ですね。



しいたけの事業活動説明 就労継続支援B型事業所湘南しいたけ 所長 藤澤 憲将

湘南しいたけでは、23名の方に利用していただき、毎日しいたけ・きくらげの栽培を行っています。園床栽培であり、日々の管理作業・収穫作業・出荷作業・加工作業と作業工程も

多く、周年で作業内容に変化がなく取り組めることが強みです。また、今年度からさつまいもの栽培も始めています。収穫量は少なめでしたが、そのまま販売するのではなく干し芋に加工して販売しています。

次年度に向け準備を進めていることが、園床を購入するのではなく、自家製造することに取り組みます。自前で製造することで、経費の削減に繋げていく事を目的としています。作業種が増えることで、今まで以上に作業に対する張り合いも感じられると思います。

日々、美味しいしいたけ・きくらげを栽培していますので、日々、購入していただけると幸いです。



事業所活動

つづき

深まった絆

共同生活援助事業所「げんせん」 大地 知里

昨年は12月、共同事業所の各 GH においてコロナ感染のクラスターに見舞われてしまい、その中でクリスマスや大晦日が行えるのか不安な状態でしたが、全員が協力し合い何とか各ホームで行事を行うことができました。クリスマス会はケーキやオードブルのごちそうを食べ楽しく過ごせたようです。年末年始は今年も恒例の年越し会を開催することができず、ホーム内で年越しそばやおせちを食べて紅白歌合戦を見るなどそれぞれの晦日や大晦日を過ごせたようでした。新年を迎え、初詣や初売りの買い物に出かける方もおり、私たち職員も今年は皆さんが健康で楽しい1年を過ごせることを願い、努力していきたいと思います。



充実した活動を目指して

日中活動センターげんせん センター長 小野寺 智裕

生活介護事業では、活動の成果を得ていただくため、生産活動にも取り組んでおります。日々行っているちぎり絵を印刷加工しカレンダーとして販売、アルミ缶を回収して圧縮し業者へ納品、農園で野菜作りを収穫・販売した収益を工賃として支給しています。今年度は、一人当たり年間7000円程度支給出来る予定となっております。現状では、わずかな金額ではありますが、より多くのお給料を支給できるように生産活動を強化して、そのお給料で「好きな物を購入する」、「外出に行く」など、余暇で活用していただくことで、「明日からも活動センターで頑張る」とやる気に繋がることで、日々の作業や活動を意欲的に取り組んでいただけたらと思っております。



雪かきで助け合いと感謝の輪

本部事務局 課長 網嶋 タ子

高齢などが理由で雪かきをすることが難しい方のお宅に訪問し、雪かきを行う「雪かきレンジャー」について、室蘭市社会福祉協議会からご紹介いただいたことをきっかけに、法人の公益的的事业として雪かきボランティアを始めてから、3年目を迎えました。

ご依頼いただくご家庭の場所や時間の関係から、登録いただいてもなかなか活動の機会がない方もいて事務局としては申し訳ない思いもありますが、年々増えていく登録者の数を見ていると各事業所の職員のみなさんの地域貢献への思いが伝わってきます。

雪かきにお伺いした依頼主の方から、「助かりました。ありがとうございます。」「今日は雪が多くて大変なのにありがとうございます。」「いつもありがとうございます。」「とたくさんの感謝の言葉をいただいておりますが、そう言っていただけるのも、職員のみなさんのご協力のおかげです。

担当させていただいているご家庭から「来年も言泉学園さんにお頼みたい」という声もいただいておりますので、引き続き皆様の協力をよろしくお願いします。



相談から

室蘭市障がい者総合相談支援室「げんせん」

室長 天野 量平

当室は7名の相談員にて相談業務を行っており、本年度の合計相談件数は8000件ほどです。仕事や生活について、主に障がい福祉サービスに関するご相談が多くを占めており、相談内容はもちろんのこと、そのご相談に至るまでの背景が人それぞれのため、「A=B. C=D」と対応を一律にパターン化をすることは出来ない業務です。お一人お一人の「どうありたいか」に近づくことを念頭に引き続きの業務推進です。

さて、次年度はいよいよの脱コロナ。皆さまからの応援をエネルギーとして、室蘭市からの受託業務（基幹相談支援センター）、11年目、頑張ります。



湘南しいたけのご用命は  (0142-82-4065) 



日中活動センターのご用命は ☎ (0143-23-0520)



ご厚志に感謝！

寄附者一覧

(令和4年3月～令和5年2月)

《団体》

(敬省略)

(株)AirDrive、(株)Daska&Desiree、(株)Wads、(有)アクト警備オフィス、(株)伊藤工業、(株)カーブスイオン登別、柏木町会、ぎょれん販売(株)、生活協同組合コープさっぽろ、心 Reborn 協会、ゴチャマーズ、社会を明るくする運動苫小牧地区実施委員会、食卓クラブ、西武池袋本店、(株)セコマ、全国シャンメリー協同組合、チビッコ未来文庫、苫小牧市商店街復興組合連合会、苫小牧マーガレット幼稚園、日本鏡餅組合、(公社)日本缶詰びん詰レトルト食品協会、(有)信田印刷、パーラーピクトリア室蘭店、(有)花のながはら、広尾町役場サンタランド係、フードバンクゆめみへる、藤川建設(株)、(株)フジテク工業、(株)フレイベル館メディア事業部、(株)ホクビー、母恋南町町会、母恋マンション管理組合、北海道損害保険代理業協会、北海道コカ・コーラボトリング室蘭登別販売課、ほっともつと、(公財)毎日新聞東京社会事業団、末日聖徒イエスキリスト教会、マルハン室蘭店、室蘭市社会福祉協議会、室蘭信用金庫、(株)むろらん東郷、室蘭友の会、室蘭東ライオンズクラブ、ラムヤート

《個人》

(敬省略)

石川英仁、市川論、今上栄二、岩浪敏之、岸留美子、栗林呂名、小西静江、斉藤正七郎、佐藤弘明、佐藤素子、庄司、芝垣晶子、須藤千恵子、立野了子、テラダヨシアキ、内藤大嗣、中村正志、成田則久、西谷沙菜、西村栄、畠山修、林宏子、福田稔、藤谷、堀内道子、松崎淳、門司一徹、八木橋紀子、山縣次朗、山下真優美、若松奈津子、脇田素子

令和5年度
社会福祉法人室蘭言泉学園カレンダー

○辞令交付式



4月

○春季行楽行事
○定時評議員会

6月

○夏季行楽行事
○日活まつり(日活)

8月

○ハロウィーン行事
○各種中間報告

10月

○クリスマス会
○忘年・もちつき会

12月

○節分行事
○冬季行楽行事

2月

○法人事業貢献表彰
○定時理事会

5月

○母恋神社祭典参加
○サマーキャンプ

7月

○おろげんまつり
○50kmあるくかい?

9月

○秋季行楽行事
○永年勤続表彰式

11月

○成人式
○新年会

1月

○退園式
○各種報告

3月

広報いずみ

2023年3月24日発行

発行人 社会福祉法人 室蘭言泉学園
住所 〒051-0004
室蘭市母恋北町1丁目4番2号
電話・FAX 0143-50-6720
HP <http://www5.plala.or.jp/gensen>

今年度もコロナ禍の影響を強く受けることとなりました。色々な制限もありましたが、工夫を凝らして一部行事を開催することができました。児童や利用者の方の様子、行事の雰囲気などが本誌から伝わればと思います。

近々新型コロナウイルスの分類が2類相当から5類に変更されることになり、社会にも大きな変化が訪れるのではないのでしょうか。今年度は両学園から計10名の児童が卒園しますが、変化の激しい時代ですが、力強く前へ進まれることを信じています。

末筆ながら、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。(か)

編集後記